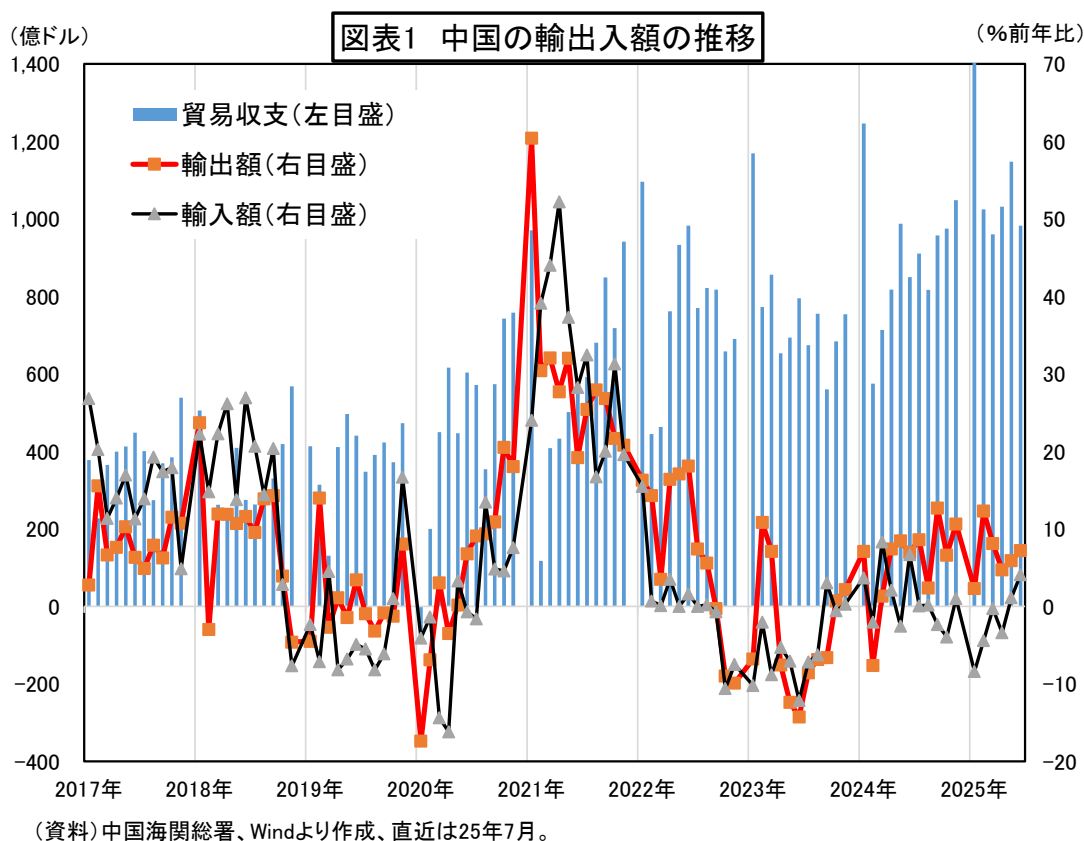


(中国)足元の輸出は想定ほど落ち込まない背景

第2次トランプ政権が発足以降、米国は4月に「相互関税」を発動し、中国に最大145%の追加関税を課した。中国も対米関税を125%まで引き上げた。こうしたなか、5月(スイス)および6月(英国)に開催された米中通商協議で、相互に賦課した関税措置を停止・廃止、協議を続けることなどで合意した。その結果、米国の対中関税は30%、中国の対米関税は10%にそれぞれ下がっている。

8月12日とされる米中通商交渉の期限を迎える前に、米中両国は7月末にスウェーデンで3回目の通商交渉会合を開催した。今回の協議の結果、さらに関税の停止期限が延長された模様である。停止期限が90日間延長されれば、新たな期限は11月10日となる。

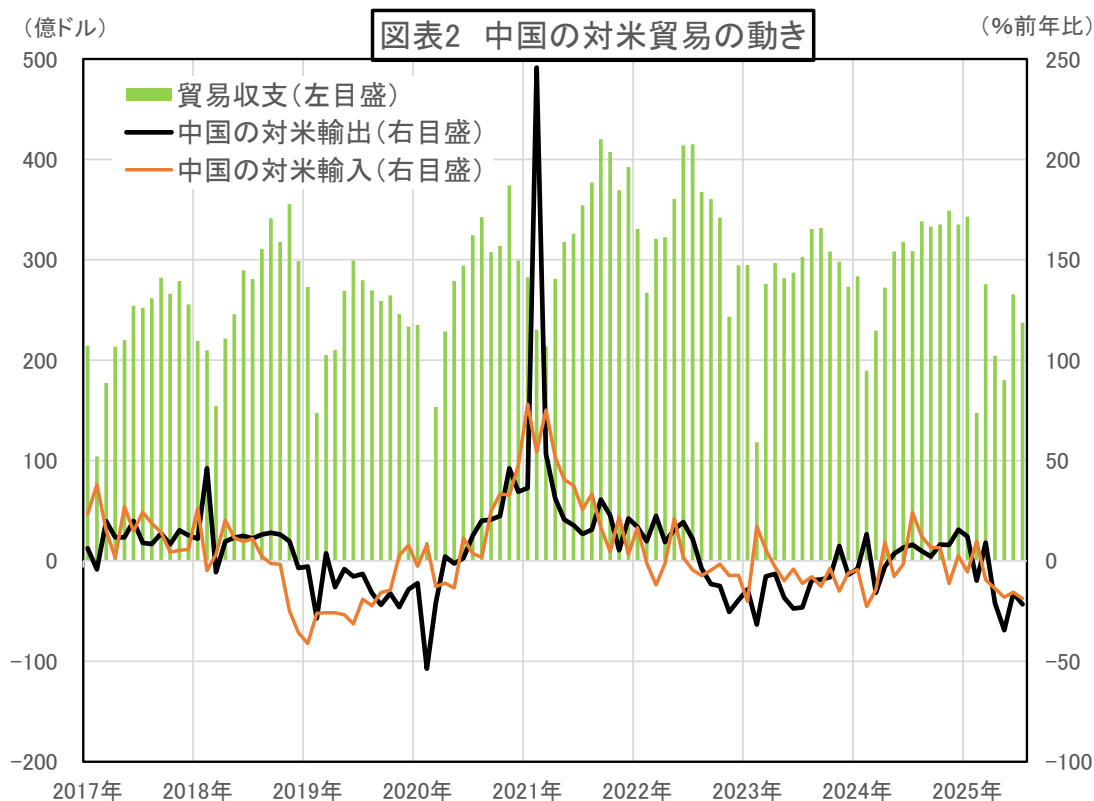
こうしたなか、中国の足元の輸出動向が引き続き注目されている。中国関総署が8月7日に発表した貿易統計(ドル建て、速報)によると、7月の輸出額は前年比7.2%の3,218億ドル(約47兆円)だった。輸出額の前年比伸びは6月の5.9%から拡大した(図表1)。



輸出品目別でみると、電気自動車(EV)を含む自動車の輸出が大きく伸びたほか、集積回路(電子部品)も好調だった。8月12日に迫る米関税の停止期限を控え、輸出業者が輸出を急いだ可能性が高い。

また、輸出先別では、アセアン向け(東南アジア諸国)輸出額は同16.6%と大きく増えた。アセア

ン諸国はトランプ関税への警戒感が強まるなか、在庫の積み増しで中国から原材料や部品を多く輸入しているとみられる。一方、7月の対米輸出額は同▲21.7%の358億ドル(約5.3兆円)と大幅に減少した。減少幅は6月の▲16.1%から拡大している。また、7月の対米輸入額も同▲18.9%の121億ドル(約1.8兆円)と減少した(図表2)。米国の対中関税は30%、中国の対米関税は10%にそれぞれ下がっているが、これらの関税賦課の影響などにより、米中間の貿易は大幅に落ち込んだ状態が続いている。



(資料) 中国海関総署、Windより作成、直近は25年7月。

なお、7月の輸入額(全体)も同4.1%の2,235億ドルと2か月連続のプラスとなった(図表1)。政府が実施している財・サービス消費促進策と設備更新策を受けて、国内需要が一定程度改善していることが示されたと思われる。輸出額から輸入額を差し引いた貿易黒字は982億ドルと6月の1,148億ドルから縮小した。